



令和2年度(2020年度)学校教育目標

自ら学び、心豊かに、たくましく未来を切り拓く生徒の育成

校訓【自主・友愛・健康】

玉名市立天水中学校だより 第12号

「唯一無二」の体育プロジェクトを達成できたあなただからこそその自信を 自らの元気で未来を笑顔にしてくれてありがとう—生徒のみなさんへ—

勝敗を決めるからには、結果としての勝者が出れば敗者も出ます。勝敗にのみ囚われると、勝者だけに価値があるように誤解してしまいます。しかし、私たちが目指してきたのはそうではなく、勝利という目標に向けて一致団結して効果的な役割分担と協働の姿勢で取り組む過程にこそ意義を見だし、そこを重視してきました。その過程にこそ、あなた自らの成長を実感できる術があると考えます。

効果的な役割分担には3年生のリーダーシップが欠かせません。しかし、リーダーシップだけでは集団は前に進むことができません。対してフォロアーシップも不可欠なのです。これら両者の重要性を確認できたのが25日に全校で行った「体育プロジェクトの振り返り」でした。各リーダーからは「集団をまとめ引っ張っていくことの難しさを感じながらも協力してくれたことへの感謝」を述べる言葉が多く聞かれました。対する「返しの言葉」の端々に「短い練習時間の中でも、先輩たちのお陰で〇〇できました」という下級生からのお礼がありました。今回の経験をもとにして来年度への前向きな姿勢を持つことの大切さを改めて感じることができました。

自信とは自分の力を信じること。その自信は自分だけの力では獲得することができるのではなく、集団の中で役割を果たす過程において身に付けられるものです。「自己有用感」という言葉がありますが、私はその言葉を、この自信を身に付けていく過程から得られるものであると考えています。



特別活動研究推進校としてのステップアップを図る校内研修

太田恭司（熊本大学教職大学院）シニア教授をお迎えして24日に実施しました。

まず、本校のこれまでの実績と本研究の現状、そして今後の見通しを研究主任の近延先生から説明しました。これを踏まえて太田先生からは来年度からの新学習指導要領改訂の背景、本校研究の進め方について多岐にわたる幅広い視点から多くの示唆をいただきました。また、本校の特質に応じたキーワードを整理し、私たちが取り組むべきことを明確に示していただきました。太田先生の刺激的な講話で80分の時間があっという間に過ぎ、「もっと聴きたい」という声が本校の先生方から多く聞かれました。

カリキュラム・マネジメントの視点であるPDC Aサイクルは体育的行事、文化的行事といった行事内容ごとに回していくのではなく、本校の特別活動で育成を目指す「資質・能力」で軸を貫き、その目標達成に向けてすべての学校行事【特別活動】をつないでいくことが重要であることを確認できました。

◇本校ホームページも随時更新しています。[天水中学校](#)で[検索](#)▶